

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第1号）」について送付しますので、業務の参考にして
ください。

令和6年産麦作情報（第1号）

1. 気象の概要（平年と比較して）

平均気温…11月下旬はやや高く推移した。12月以降は、全体的に0.9～7.4℃高く推移したが、12月4～5半旬は1.6～4.3℃低かった。

（12月2,3半旬：3.4～7.4℃高温、12月4,5半旬：1.6～4.3℃低温、
12月6半旬～1月4半旬：0.9～4.9℃高温）

降水量……11月下旬から12月上旬はほとんど降雨がなかった。12月3半旬と1月4半旬にまとまった降雨があり、その間も数日おきに少量の降雨があったが、12月1日～1月22日の積算降水量は平年比69%と少なかった。

日照時間…全体的に日照時間は長く推移したが、12月3～5半旬は平年比12～52%と短く推移した。

2. 麦類の生育状況

農試情報田の調査結果（1月18日付け 麦づくり情報第1号）

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	11/30	14.0	494	4.5	[気象] 11月20日～1月17日まで ◆平均気温…1.2℃高い ◆日照時間…長い（平年比109%） 12月第3～5半旬は少ない（平年比33%） ◆降水量…少ない（平年比36%） [生育] ◆出芽期 11/20「シロガネコムギ」は1日早い。 12/8「シロガネコムギ」は8日早い。 12/1大麦は7～8日早い。12/8大麦は10～11日早い。 ◆草丈 11/20「シロガネコムギ」はやや低い。その他は高い。 ◆莖数 共通して多い。 ◆葉齢 11/20「シロガネコムギ」は平年並み。その他は進んでいる。 ◆幼穂長及び節間長 11/20「シロガネコムギ」 幼穂長0.8mm、節間長4.1mm
		平年	12/1	14.6	437	4.6	
		平年比(差)	-1	96	113	-0.1	
	12/8	本年	12/20	10.4	209	2.9	
平年		12/27	9.3	165	2.4		
平年比(差)		-7	112	127	+0.5		
サチホゴールド	12/1	本年	12/12	12.0	538	4.1	
		3か年平均	12/20	9.6	270	2.8	
		平年比(差)	-8	125	199	+1.3	
	12/8	本年	12/20	11.5	378	2.7	
平年		12/30	8.4	203	2.1		
平年比(差)		-10	137	186	+0.6		
はるか二条	12/1	本年	12/12	11.4	523	3.9	
		3か年平均	12/19	7.8	303	2.6	
		平年比(差)	-7	146	173	+1.3	
	12/8	本年	12/20	11.7	310	2.5	
6か年平均		12/31	7.9	214	1.8		
平年比(差)		-11	148	145	+0.7		

三神管内の調査結果（調査日：1月20日）

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉齢 (L)	備考
上峰	シロガネ コムギ	本年	11/26	125	21.3	597	5.0	・ 平年の播種日は11/15～12/8 ・ 草丈は高く、茎数が多い。 ・ 葉齢は進んでいる。
		平年	11/27	158	11.9	239	3.1	
		平年比(差)	-1	79	180	250	+1.9	
吉野ヶ里	はる風 ふわり	本年	11/23	78	14.4	326	5.2	・ 平年の播種日は11/15～11/19 ・ 播種量が少なく、苗立数が少なかった。 ・ 面積当たり茎数は少ないが、個体当たり 分げつ数はやや多い。 ・ 草丈は高く、葉齢は進んでいる。
		3ヶ年平均	11/17	131	11.4	523	4.6	
		平均比(差)	+6	59	126	62	+0.6	
鳥栖	はるか 二条	本年	11/25	139	11.1	390	4.4	・ 平年の播種日は11/20～27 ・ 草丈は平年並み。 ・ 茎数は多く、葉齢は進んでいる。
		4ヶ年平均	11/22	113	11.0	246	3.5	
		平均比(差)	+3	123	101	159	+0.9	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H25～H29及びR4～5の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から3ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から5ヶ年の平均値。

【概況】

- ・ 11月下旬から12月上旬にかけて降雨が少なかったことから、播種作業は順調に進んだ。
- ・ 小麦の播種作業は11月中旬を中心に行われ、出芽は良好で、現在5葉期ごろとなり、分げつの抽出も旺盛になってきている。
- ・ 大麦の播種作業は11月中～下旬を中心に行われ、現在4～5葉期となり、分げつの抽出も旺盛になってきている。

3. 今後の管理

追肥（本葉3～4葉期頃）

- ・ 追肥は生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・ 晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・ 追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。

麦踏み（3葉期以降）

- ・ 麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。
- ・ 土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し排水性が悪くなる。

【麦踏みの効果】

- ①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

土入れ（5葉期以降）

- ・ 土壌水分が高いときに土入れを行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなる。
- ・ 雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。

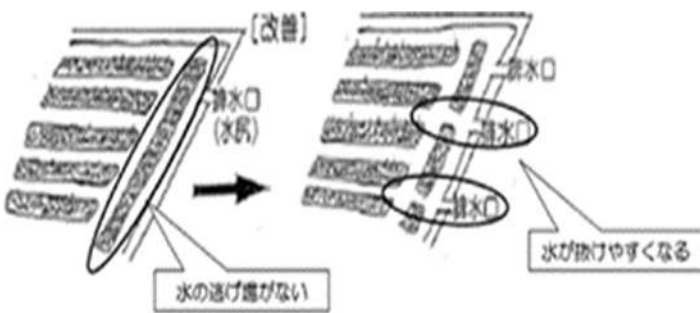
- 分げつ初期に土入れ量が多いと、分げつを抑制することがある。
→ 土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくことが基本。
- 播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

【土入れの効果】

- ①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

排水対策

- 排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- 近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



鳥獣害対策

1) カモによる食害

- 川沿い(筑後川、クレーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害圃場が散見される。
- 被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

(症状)

- 麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- 周辺に鳥の糞が落ちている。



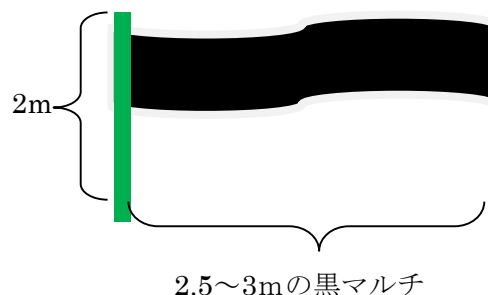
▲【カモによる食害痕】



▲【カモによる食害圃場】

(対策)

- カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。
- 水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- 2.5~3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。
(費用は、「のぼり」1本あたり約420円)



2) カラス

- カラスによる被害は、有害鳥類の中で最も多く、加害対象や内容も非常に多岐にわたる。

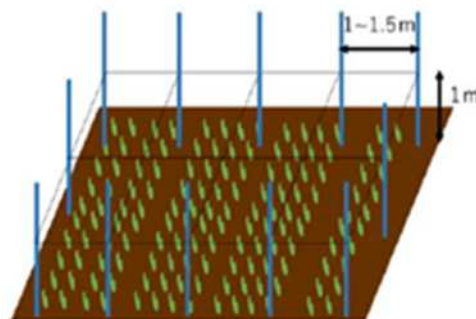
(症状)

- 写真は播種後の種をくちばしで探って食べた後の被害圃場である。
- 雑食性で、水稻や麦の種子もよく食べる。



(対策)

- 黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ(1~1.5m)の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。
- さらにテグスなどを張り巡らせると翼に当たるのを嫌がる為、効果が高くなる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。



(次年度対策)

- 忌避剤として、キヒゲンR-2フロアブルを種子粉衣する。ただし、絶対的な忌避効果ではないため、周辺に他の餌が少なければ加害を受ける。

雑草対策

- 同一除草剤の連用により除草剤抵抗性雑草の発生が報告されている。これまでに同一の除草剤を連用した圃場など、除草剤散布後も雑草の取りこぼしが目立った圃場では使用する除草剤の変更を検討する。
- 例年雑草の発生が目立つ圃場では、除草剤1回の散布では十分な除草効果が期待できない。麦の生育量確保と雑草種子の混入防止のため、下記の例を参考に体系的な防除を実施する。

【雑草対策の例】

- ①播種直後除草剤散布 → ②生育期除草剤散布 → ③中耕(複数回) → ④手取り除草
※難防除雑草は除草剤1回での除草は困難です。地道な防除で根絶を目指しましょう!

(注意)

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える(特にステージの進んだ雑草の場合、十分間隔をあける。)

～麦圃場でよくみられる雑草(広葉)～



ノミノフスマ



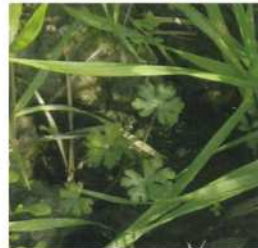
ミチャナギ



ヤエムグラ



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロウ



タデ類 (イヌタデ)

カズノ生育当初は、両雑草とも根の色が白色だが、生育が進むとカズノコグサの根は「白色」で、スズメノテッポウの根は「赤褐色」となるため判別可能。

(農薬メーカー資料から抜粋)

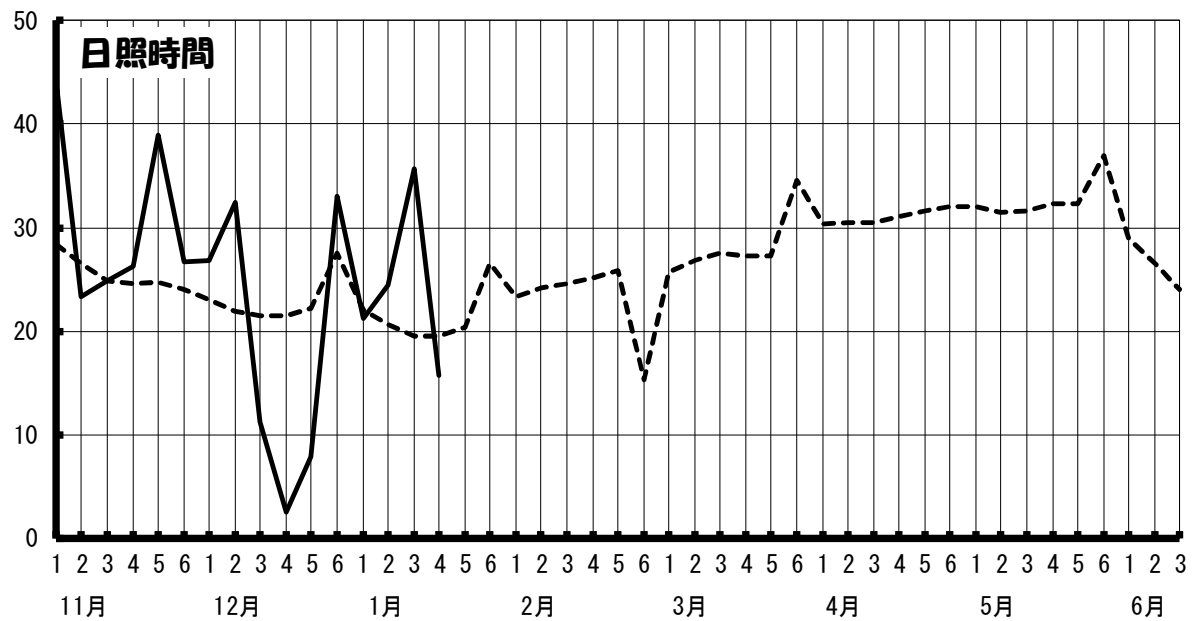
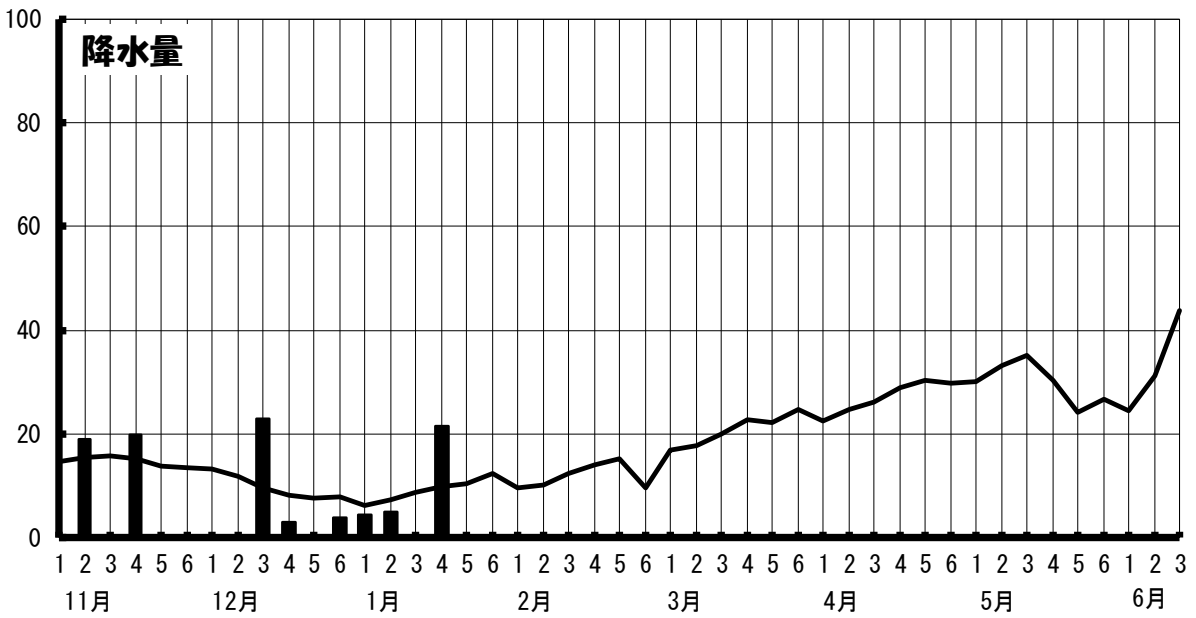
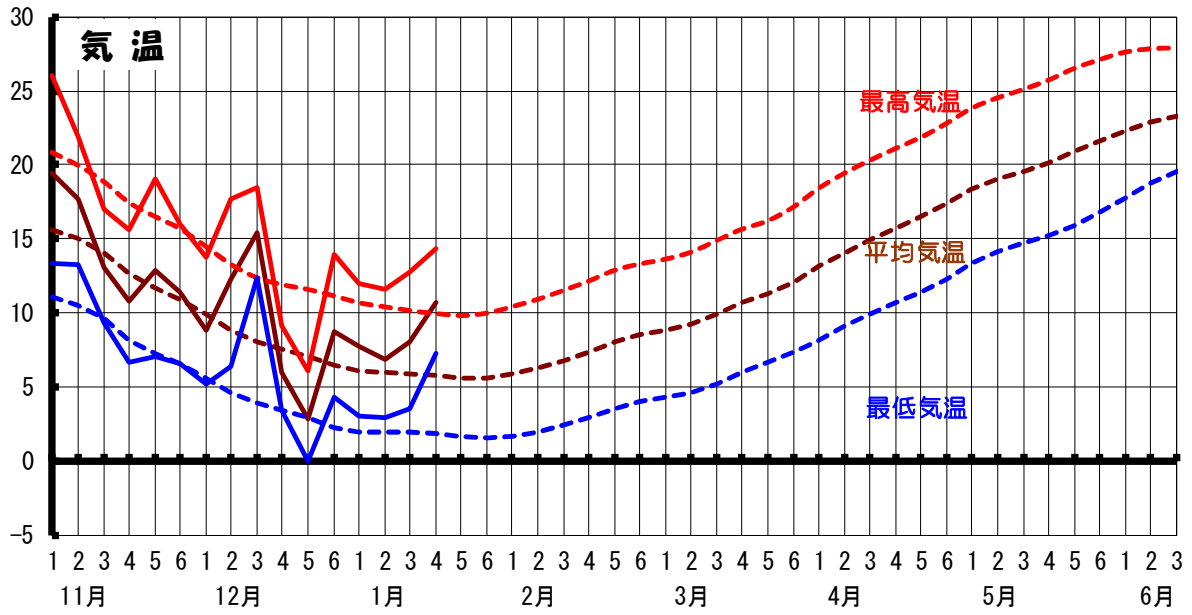
生育期除草剤 使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10aあたり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦: 収穫45日前まで 大麦: 収穫90日前まで	1回
ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	播種後～節間伸長前 (スズメノテッポウ: 5葉期まで) (カズノコグサ: 1～3葉期まで) 小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫45日前まで	1回
	ハーモニー75DF水和剤使用上の注意点 <ul style="list-style-type: none"> 播種後にハーモニー細粒剤Fを散布した圃場は使用不可 薬害が生じ易いので周辺作物に注意 使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない 一年生広葉雑草の例 ミチャナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロウ、ノミノフスマ (ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。)				

R6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業振興センター



グラフ中の点線は平年値